

○自己効力感とは、ある状況下で結果を出すために適切な行動を選択し、かつ遂行するための(段取りをして実行できる)能力が自己にあると自信をもてること。(バンデューラ1986)

→発達障害=実行機能の問題、特性、汎化しづらさから自信がもちにくい。

不適応行動を減らす<自立支援

○自尊感情/自己有用感が高まる為には

親や先生、周囲から大切にされている感覚

目標に対して自分は出来る、達成できると思える感覚

安心できる環境設定

視覚化した情報・構造化・認められる環境

アセスメントから自立に導くー課題と支援の割合を考えるー

○発達の最近接領域とは、現時点で自力で課題を解決できる水準と他者の助けを借りれば解決できる水準(潜在的発達水準)の差を指す。この領域での学習が効果的な成長・発達を促すことが期待されている。

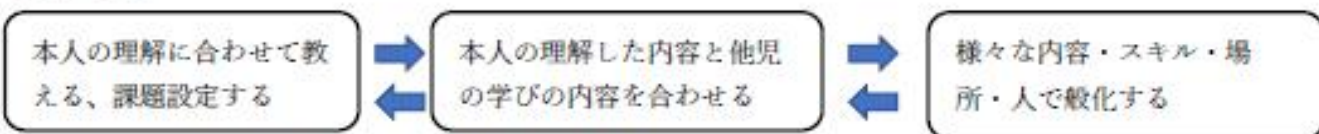
○アセスメントの基準

P 合格	できる、自立	▶活用、発展する
E 芽生え・反応	部分的にできる、もう少しでできる	▶課題にする、教える
F 不合格	できない、ニーズの部分	▶支援を考える、教えない

○課題分析を行う

- ①様々な要素を小さな行動単位(細分化)に分けて記述する
工程の課題分析一時系列に記載。時系列以外の要素も書き出す
- ②必要なスキルを書き出す
- ③必要な概念(理解を書き出す)

○自立支援



○行動支援：氷山モデルで考えて支援計画に活用する！

